

授業科目 成人言語障害学Ⅰ

【担当教員名】 渋谷直樹	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【一般目標：G I O】

成人脳損傷者のリハビリテーションにおけるチームアプローチに専門職として参加するため、成人に発生する言語・コミュニケーション障害（失語および右半球損傷・痴呆・頭部外傷などによるコミュニケーション障害）の言語症状の特徴や鑑別の方法を理解し、他の専門職との連携のあり方について認識を深める。

【行動目標：S B O】

1. 失語学の生い立ちについて説明し、その発展の概略について述べることができる。
2. 失語の発生のメカニズムについて、原因疾患と病巣を中心に整理して述べるができる。
3. 失語の言語症状を説明すると共に、他の症状と鑑別することができる。
4. 失語の分類名を列挙しその特徴を述べるとともに、典型例については他から鑑別して同定できる。
5. 失語と鑑別すべきコミュニケーション障害を列挙し、主な鑑別点を説明できる。
6. 失語のリハビリテーションの流れについて、チームアプローチの観点から説明できる。
7. 失語の予後についてその概略を説明できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	失語学の生い立ちと発展	1	講義 OHP、プリント
2	失語の原因疾患と病巣	2	講義 OHP、プリント、VTR
3	失語の言語症状（1）	3	講義 OHP、プリント、VTR
4	失語の言語症状（2）	3	講義 OHP、プリント、VTR
5	失語の分類	4	講義 OHP、プリント、VTR
6	失語近縁のコミュニケーション障害とその鑑別	5	講義 OHP、プリント、VTR
7	失語のリハビリテーションの流れと失語の予後	6.7	講義 OHP、プリント

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	脳卒中後のコミュニケーション障害	竹内愛子・河内十郎編著	協同医書出版社	1995年、5600円 ISBN:4-7639-3009-5
参考書	適宜紹介する			
その他の資料	プリント			

【評価方法】

出席状況とレポート、期末試験により評価する。

【履修上の留意点】